

■平忠盛 武將。父正盛同様、日宋貿易による財力で、白河上皇の寵を得、武家初の内昇殿で、平氏の地位を高めた。
たいらのただもり
白河上皇出家1096＝ 伊勢平氏で、白河法皇に北面武士として仕え、源義親の追討で武名を上げた正盛の子に生まれる。

中尊寺始・・・1105＝ 9歳：

白河院政確立1107＝11歳：
・・・1108＝12歳：左衛門少尉，

・・・1111＝15歳：検非違使を兼帯して、京の治安維持に従事。

永久の変・・・1113＝17歳：盗賊の夏焼大夫を追捕した功で、従五位下に叙される。永久の強訴では、父とともに宇治に出動して興福寺の大衆の入京を阻止している。

・・・1114＝18歳：白河院の寵妃祇園女御に鮮鳥を献上し、父に続いてこの女御に仕えるなど、父同様、白河法皇の寵を得、

・・・1117＝21歳：伯耆守。右馬権頭も兼任。鳥羽天皇に入内した璋子藤原(待賢門院)の政所別当となる。

・・・1119＝23歳：賀茂臨時祭では新舞人に選ばれ、その華やかな装いで周囲を驚嘆させる。

関白免職事件1120＝24歳：越前守に転任、敦賀郡で殺人事件が起こり、犯人の日吉社神人を逮捕して検非違使に引渡す途中、延暦寺の悪僧に犯人の身柄を奪取され、朝廷が悪僧を捕えたことで、延暦寺の強訴に発展するが、白河法皇から擁護され、
・・・1123＝27歳：源為義とともにを退ける。この頃に、院の昇殿を許され、藤原宗子(池禅尼)を正室とする。

・・・1127＝31歳：従四位下。備前守。左馬権頭を兼任、院の牛馬の管理を行う院御厩司となって、戦闘に有利になり、

鳥羽院政始・1129＝33歳：従四位上。*白河法皇の強引な引立てで、山陽・南海両道の海賊を追捕使に抜擢される。直後に、法皇が死去すると、他の近臣とともに入棺役を務め、山作所の設営も担当。

・・・1130＝34歳：正四位下。鳥羽院政となっても、職務はそのまま引継がれ、

武家内昇殿始1132＝36歳：*上皇勅願の得長寿院造進の功により内昇殿を許される。未曾有の人事に、憎んだ公卿たちによる闇討ちが企てられるが、機転で防ぎ、鳥羽上皇から賞される。荘園整理が全く実施されなくなり、荘園激増で、

忠盛宋船横領1133＝37歳：鳥羽院領肥前神崎荘の管理を任されると、大宰府を無視して日宋貿易に関与。大宰府が強制監査に入ろうとするも、鳥羽院の威を借りて拒否。巨利の一部を鳥羽院に還元することで、さらに関係を強化。

・・・1135＝39歳：中務大輔に転任。山陽、南海の海賊が増大して来たため、再び追討使に任じられ、70名の海賊を連行して京に凱旋したが、その多くは自らの家人でない者を賊に仕立てたもので、降伏した海賊を自らの家人に組織化するという智恵ぶりを発揮、

・・・1136＝40歳：美作守、

・・・1139＝43歳：別当隆覚の停任を求めて興福寺衆徒が強訴を起こすと、宇治に出動して入京を阻止。

崇徳天皇讓位1141＝45歳：

鳥羽法皇の寵愛が藤原得子(美福門院)に移り藤原家成が院近臣筆頭の地位を確立すると、妻の宗子が家成の従兄弟であったことから、親密な関係を築いていく。また、自ら和歌を嗜むものの、鳥羽法皇が和歌に熱心でなかったことから、歌壇は中心だった崇徳上皇の主催する歌会にたびたび参加している。

・・・1144＝48歳：正四位上。尾張守となり、右京大夫も兼任。

・・・1145＝49歳：*受領の最高峰となる播磨守に転じ、右京大夫も兼任。公卿への昇進も間近となったが、

・・・1147＝51歳：祇園社神人と嫡子清盛の従者の闘乱事件で、延暦寺僧徒から流罪に処すべしと訴えられ、上皇が退けて事なきを得るものの、

・・・1148＝52歳：鳥羽院執事別当。藤原忠隆が公卿に昇進すると忠盛は四位の最上位者となり、

・・・1149＝53歳：熊野詣の途中で次男の家盛が急逝するという不幸に見舞われる。忠隆の後任として内蔵頭となる。

頼長氏長者・1150＝54歳：

頼長内覧・・・1151＝55歳：別当から、刑部卿に転任。

・・・1152＝56歳：内蔵頭を辞任し、

・・・1153＝57歳：刑部卿も辞任して、*公卿昇進を果たせずに、没した。